

取組のきっかけ

近年、GIS（地理情報システム）は様々な業務で活用が進んでいますが、私の担当する治山業務では他の業務と比較し活用場面が少なく感じていました。これまで覚えたスキルを無駄にせず活かしたいと思い、QGISを活用し治山業務における課題解決に取り組む事にしました。

課題の抽出・取組の内容・成果

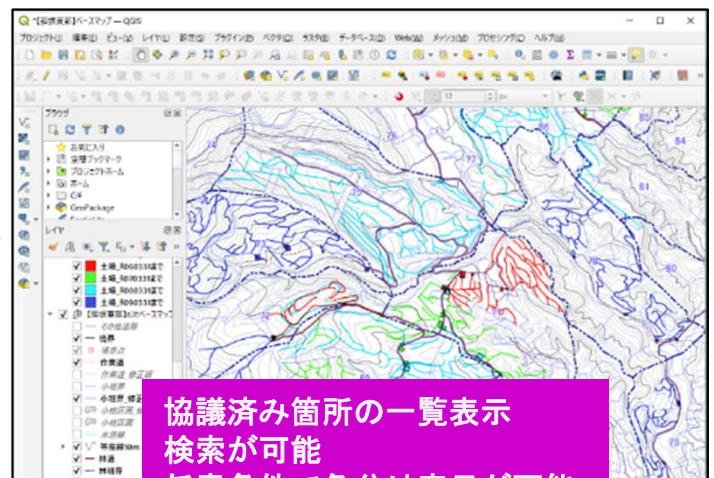
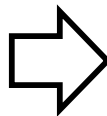
治山業務は大別すると「工事に関する業務」と「保安林に関する業務」に分かれています。それぞれ課題を抽出し検討します。



保安林に関する業務の課題 協議済み箇所管理



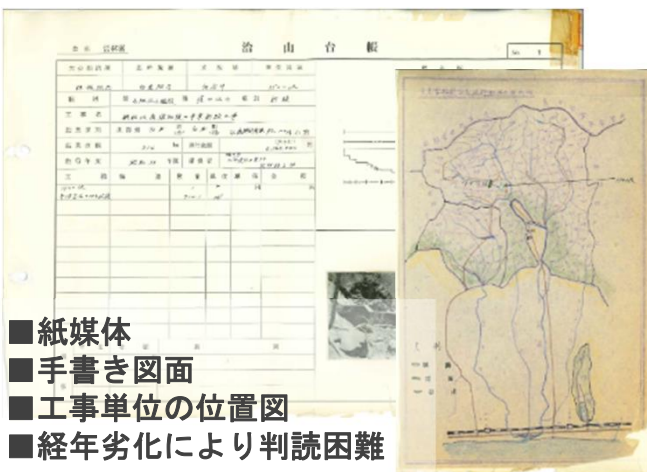
- 紙媒体
- 手書き図面
- 隣接箇所でも別々の図面
- 毎年増えるため膨大な枚数に



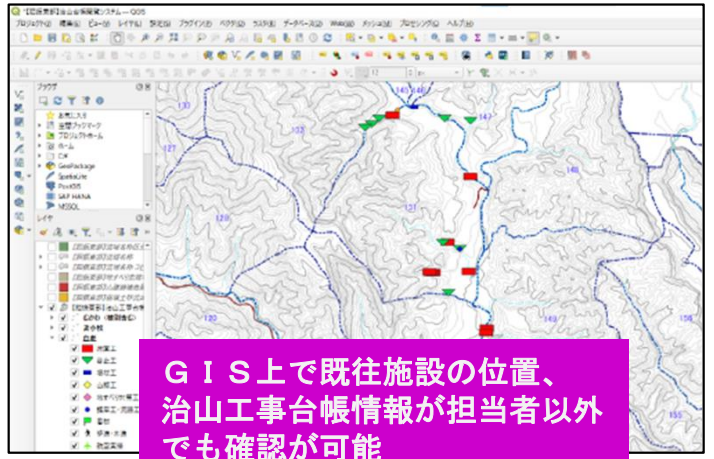
協議済み箇所の一覧表示
検索が可能
任意条件で色分け表示が可能



工事に関する業務の課題 治山工事台帳の経年劣化



- 紙媒体
- 手書き図面
- 工事単位の位置図
- 経年劣化により判読困難



GIS上で既往施設の位置、
治山工事台帳情報が担当者以外
でも確認が可能

更なる取組



作成したデータを活用してもらうため、継続的に署内勉強会を開催しています。

PDCA

データを活用した職員から使用感を聞き取り、データの追加など改善・改良を続けています。

まとめ

GISの活用頻度が低いと感じていた治山業務においても活用が可能であることが分かりました。他の業務においても、まだまだGISを活用出来る場面は残っていると考えます。新しい技術によって、これまでの業務をアップグレードするため、普段の業務を見つめ直すきっかけになれば幸いです。